

【結果・考察】

- 「正しく漢字を書いたり、正確に計算したりすることができる。」では、保護者の肯定的な回答の割合が昨年度より6%、教職員においては23%も高くなっている。授業改善を行っていくことで少しずつ成果を実感している。今後も保護者の意見を取り入れ、児童の実態に応じた指導を行っていく。
- 「よく読書をしている。」では、児童、保護者ともに、昨年度の割合よりも下回っている。保護者においては32%と低い結果となった。児童の実態を再度把握し、自ら取り組みたくなる読書環境を保護者、地域とともに整備していく。

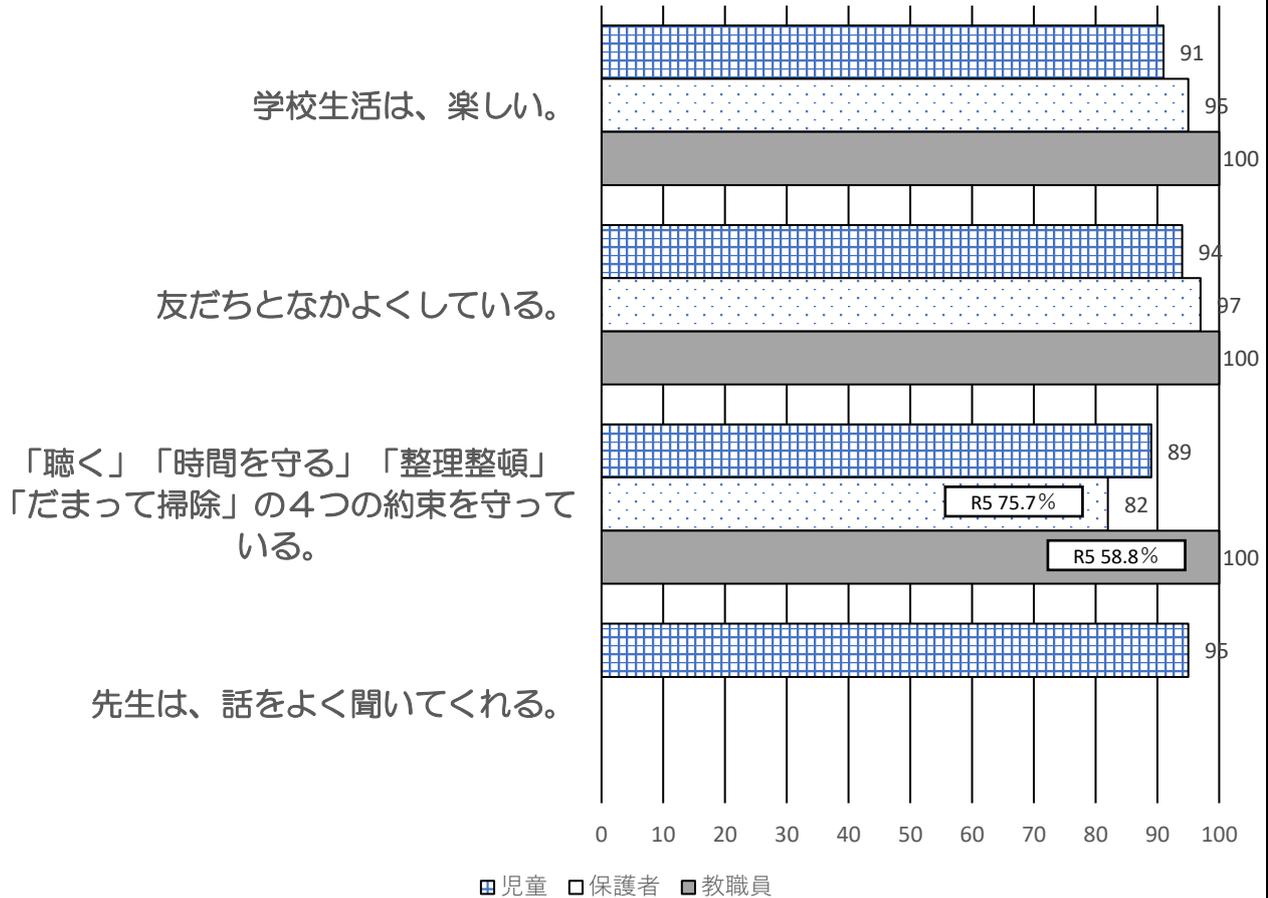
A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

【「子どもの学習」についての学校運営協議会の方のご意見】

- ・読書や漢字、計算について、子どもと親、先生の乖離があるが指標を共通・明確にして判断する必要があるのではないかと。子どもの達成感にもつながると思う。
- ・児童よりも保護者の方が%が高いところは賛否両論だと思う。
- ・設問に対する評価（判定）の基準が不明瞭でバラツキが出ていると思う。
- ・漢字に関しては、字は書けても書き順が間違っている子どもが多い。
- ・理解度、正確性等、100%を求めているのか、80%で十分と判断するのか。
- ・教職員と児童の意識に差があることは気になるが高い水準で学習活動が行われているようなので良いと思う。
- ・子どもたちの解答より先生方の点数が甘いと思われる。
- ・自分自身パソコンで文字入力するので「書く力」が衰えている。紙に文字や文章を書く機会が減少しているため成果が表れているのはすばらしい。
- ・タブレット使用で理解が深まるのかもしれない。
- ・学習については、おおむね順調と判断できる。
- ・落ち着いた環境で真面目に授業に取り組んでおり良好。
- ・自分の子どもが卒業しているため現状では分からないが勉強する習慣は小学生の頃に身に付いたと感じている。
- ・読書も学年（低・中・高）毎に目安時間を判定基準にするとか。
- ・今後、読書環境を整え、読書に親しむことができるようになることを望む。
- ・読書に関しては活字離れしているせいかもしれない。
- ・読書については家庭で読書する機会がないと考えられる。質問内容を変えるといいのではないかと。
- ・「よく読書をしている」というデータからは家庭での読書習慣が定着していないことが伺える。保護者自身とともに読書する姿勢を醸成するのは困難か。
- ・読書力は教科の基礎となると思う。もう少し家庭での本を読む習慣をつけてほしい。
- ・読書については児童・保護者ともに定性的な感覚で判断しておりバラツキが多いと思う。例えば、読書本の数で評価する等を検討してはどうか。
- ・「よく読書をしている」では、SNSの浸透が進み、今回の結果の読書ができていないということが子どもの学習結果にどう結び付いているか検証してみたい。

子どもの生活について

アンケートの「よくあてはまる」「大体あてはまる」の肯定的な回答の割合を%で示している。



【結果・考察】

○児童も保護者も約9割を超えて学校生活は楽しいと感じている。この結果を大事に受け止め、今後の教育活動に取り組んでいく。

○「4つの約束」の昨年度の評価では、児童と保護者、教職員の割合に大きな差があった。しかし、今年度の結果、児童と教職員の肯定的な意見の割合が高くなった。「聴く」「時間を守る」「整理整頓」「だまって掃除」のどの項目でも具体的な指導が浸透していることが分かる。落ち着いた教育環境づくりに今後も努めていく。

●「友だちとなかよくしている。」では、5%の児童が否定的な回答をしている。教職員の普段からの観察や絆アンケート等で児童理解を行い、小さな変化やサインをしっかりとキャッチしていく。

A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

【「子どもの生活」についての学校運営協議会の方のご意見】

- ・「学校は楽しい」と感じていることが何より。「友達と仲良く」で5%否定的は当たり前、いい数値ではないか。
- ・挨拶は良くなっている。
- ・「4つの約束」が昨年度よりよくなっているのは、皆さんや子どもたちの努力があり結果につながっている。
- ・「4つの約束」は保護者の家庭での取組が重要だと思う。
- ・学校生活が楽しいと思えるには、友達のことだけではなく、先生との関わりも大きな要素だと思う。そのことで、児童の95%が「先生はよく話を聞いてくれる」と回答しているのは評価できる。
- ・子どもの生活については3者ともに高評価となっている。児童たちに聞いて多くの方から楽しいとの回答であり良好といえる。特に先生が話をよく聞いてくれるはすばらしい評価と思う。
- ・おおむね良い回答と思う。
- ・否定的な子どもたちのサインを見逃さないでほしい。
- ・教職員も人的環境の一つなので学校で生き生きと楽しく過ごし児童と接してほしい。また、児童の手本となる行動を求める。少数の意見もしっかり受け止め、子どもの気持ちに寄り添うようにしてもらいたい。
- ・通学とかクラブでも仲良くやっている姿がほほえましい。
- ・子どもの生活については、どの項目も順調であると思う。これからも継続してほしい。
- ・子ども教室の中での判断になるが、大体上記の回答と合致していると思う。
- ・「友達と仲良くしている」は5%の児童が非常に心配であるのでよく観察してほしい。

学校の取組について

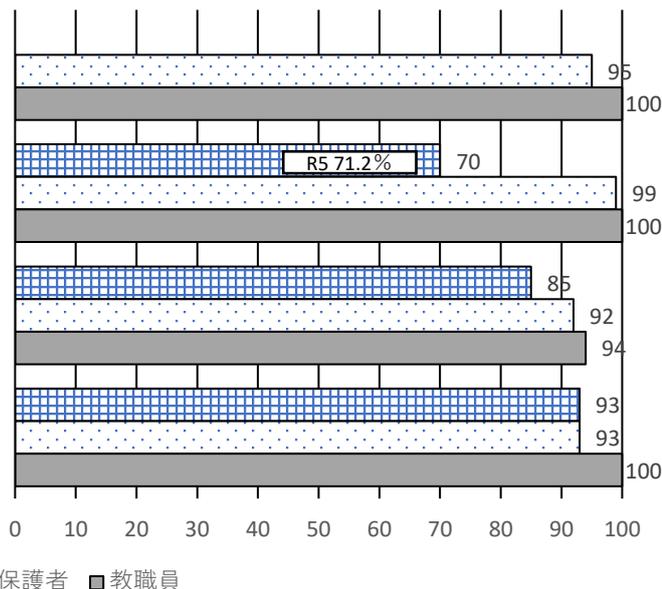
アンケートの「よくあてはまる」「大体あてはまる」の肯定的な回答の割合を%で示している。

学校は、いじめや不登校等の問題について、早期解決に努めている。

エコ回収やコミュニティ・スクール行事活動を進んで行っている。

学校で体力づくりを進んで行っている。

学校で、タブレットを使って、進んで学習をしている。



【結果・考察】

○いじめや不登校等の問題の早期解決への取組については、今年度も肯定的な割合が高い結果となった。生徒指導上問題が起こった場合、職員同士で報告、連絡、相談を行い、組織での解決に取り組んでいる。また、アフターケアにも努めている。

○タブレットの使用については、児童、保護者ともに肯定的な回答の割合が高く、文房具の一つとして定着している。長期休業中にはタブレットを持ち帰り、学習ツールとしてだけでなく、連絡ツールとしても今後活用の幅を広げていく。

●「エコ回収やコミュニティ・スクール行事活動を進んで行っている」では、児童と保護者、教職員で大きな差が出ている。コミュニティ・スクール行事活動では、地域の方との触れ合いを大切に、児童は様々な体験をさせていただいている。行事においては、双方向での取組になるよう、児童にも行事において何ができるか考える機会を設けていく。

A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

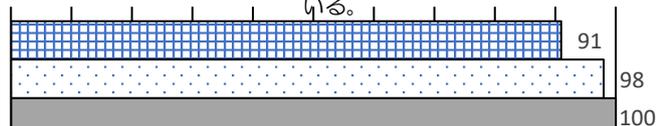
【「学校の取組」についての学校運営協議会の方のご意見】

- ・「エコ回収やコミュニティ・スクール」については認識、判定の基準の曖昧さではないか。アンケート日に近いエコ回収日にたまたま持参できなかった児童が2～3割いたのでは。
- ・地域との触れ合いが十分できていると感じているが、より子どもたちが主体的に活動できるように考慮していただきたい。
- ・ほぼ順調であると思う。ただ、エコ回収やコミュニティ・スクール行事活動では児童の割合が少ないのは残念だ。質問内容の捉え方が今一つかも知れない。
- ・エコ回収やコミュニティ・スクール行事は子どもたちがそういう活動として認識していないための認識不足と思う。実質的な活動量はかなり多いと思う。
- ・児童の活動の中にコミュニティ・スクールの活動が含まれていることを特に低学年の児童に伝えていけば設問の結果が変わってくると感じた。
- ・児童はコミュニティ・スクールの言葉を十分理解できていないのでは。
- ・「エコ回収」については時間割に持参物として記載されるべきではないか。エコ回収したものはどう処理されるのか知りたい。学校の資金等になっているのか。
- ・エコ回収とコミュニティ・スクールの活動は切り離れた設問にしてはいいかがか。
- ・いじめや不登校の問題は、保護者の回答が100%になってほしいが先生の負担も大きくなるため難しい。声に出せない子どももいると思うため、日頃の目配りも重要。
- ・いじめや不登校の話は聞くこともなく教職員の努力の結果であり高く評価するとともにぜひ継続していただきたい。
- ・おおむね順調な回答と思われるが子どもたちの評価に比べて教職員の評価が全体に高いのは少々気になる。
- ・いじめ等の早期解決に児童のグラフがないのは気になる。子どもたち一人一人が楽しいと思えるような学校づくりをお願いしたい。
- ・タブレットが文房具の一つとして定着していることに驚いている。
- ・体力づくりについて、何種類かの運動を決め、到達点に達すれば表彰するなどの工夫もありか。

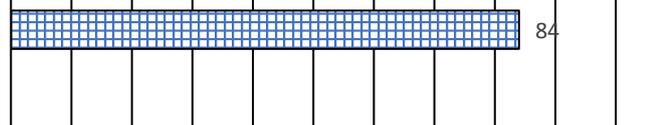
家庭・地域との連携について

アンケートの「よくあてはまる」「大体あてはまる」の肯定的な回答の割合を%で示している。

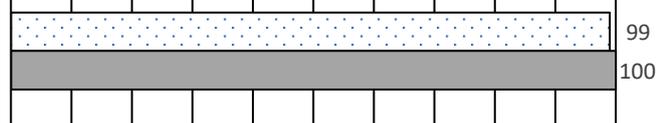
コミュニティ・スクール行事では、地域の人にきちんとあいさつをしている。



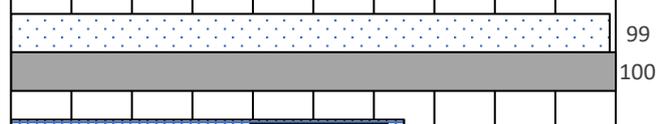
家では、学校であったことをよく話す。



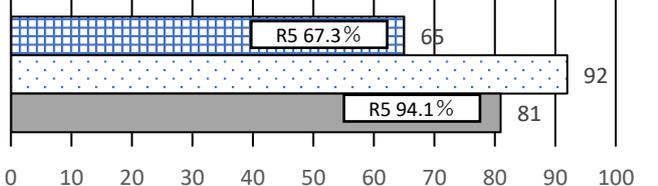
学校は便りやホームページなどで、積極的に情報公開している。



学校は、保護者からの相談に適切に対応している。



地域の行事に参加している。



■ 児童 □ 保護者 ■ 教職員

【結果・考察】

○学校で行われている活動について積極的に公開している、という高い評価をいただいた。また、保護者からの相談に適切に対応している、についても昨年度同様、肯定的な回答の割合が高い結果となった。今後も児童の成長のために、家庭と学校、地域とのつながりを大切にしていく。

●コミュニティ・スクール行事活動については、ホームページや学校だより等で活動の様子を発信している。しかし、地域の行事については、学校において、広めていくことができていないのが現状である。教職員も「地域を知る」という観点において、地域の方から話を聞く機会を設けていきたい。

A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

【「家庭と地域との連携」についての学校運営協議会の方のご意見】

- ・児童が家でよく話す設問では保護者の評価欄がないのはなぜか。両方があれば正しく評価できるものと思う。
- ・家庭の問題であるが子どもが学校であったことを話していない割合が16%あると思うと、子どもの関わりを増やしたいと思う結果である。
- ・「家では学校であったことをよく話す」の設問は保護者にも聞いた方が比較としては有効と考える。
- ・学校だよりやホームページでの情報公開はいつも楽しく見ている。
- ・高津小学校のホームページにはたくさんの写真が掲載されている。そこまでとは言わないが垣生小学校ももう少し写真を頑張っていただきたい。
- ・判断できる項目を考えると、挨拶、情報公開はよくできていると思う。
- ・おおむね順調であると思う。
- ・実体験が大切と考える。地域の行事に先生方の姿が少ない。先生の参加で子どもたちも関心を持つのではないかと考える。
- ・地域の行事に参加するのは難しいと思うが「地域を知る」ことは少しずつできると感じたので取り組んでほしい。
- ・地域の行事に参加の評価だが、コロナ禍以降行事も減少し設問自体に問題がある。コミュニティ活動での評価で十分と思う。
- ・児童の地域行事の参加については、そこそこできていると思う。認識の差ではないかと思う。保護者の参加が多ければ、必然的に児童も多い。
- ・学校行事が地域と結んでいることが児童に理解されているかが問題である。ある程度の説明が必要ではないか。
- ・連携はよくできていると思う。
- ・大変よくできている。
- ・学校・家庭・地域の連携がうまくできていることが数値上も表れている。